

# 藤井五冠に対する面白いコメント集

橋口 邦紘



2018年9月9日 ABEMA トーナメント決勝では、佐々木六段が藤井君の攻めを受け止めたかに見えましたが、藤井君が細かい技を連発して、正面突破してしまいました。そういった攻め方について、朝日新聞の村瀬記者は Twitter で「渡辺名人を思わせるスゴ技」と評しました。渡辺棋王は藤井君と増田六段についてブログで「若い才能にどう対峙すればいいのかとおじさんはクラクラしますね、あれを真似するのは私には無理かと(笑)」

2018年6月2日「関西将棋まつり」に参加した菅井王位は里美女流五冠から、2戦目が予定されている藤井君について「以前(2017年8月4日)は勝たれていましたよねと話を振られると「いやあの頃はそんなに強くなかったから(笑)」。とコメントしたが、2回目も勝った。谷川浩司九段が以前「藤井に大活躍されて20代、30代の棋士は悔しくないのか」の発言に対する反応、糸谷鉄太郎「悔しいという感情は、大人になって社会性の獲得と共に薄まる」(大阪大学大学院哲学専攻)

2018年7月29日 増田康弘六段 ABEMA トーナメント1回戦で藤井君と戦う事になった増田六段インタビューで勝つ確率はと聞かれるとしばらく悩んだ後、25%ぐらいですかねと回答、新人王2連覇を誇る増田六段にそこまで発言させるとは、やはり藤井君は別格の存在なのでしょう。

2018年7月31日 三枚堂六段 C級1組順位戦の藤井、西尾戦では、藤井七段が不安定な玉形にもかかわらず、激しい攻め合いに持ち込んで、この後、僅か12手で勝利。そんな展開を見て、ABEMATVで解説していた三枚堂六段は「さっき藤井七段の終盤は勉強になると言いましたがこれは強すぎて勉強にならない(笑)」とコメント、藤井七段の棋譜は勉強用ではなく、鑑賞用と思ったほうが良いかも。

2018年8月11日 本下七段 叡王戦で藤井君に完敗した本下七段は、対局後、「記念対局ですね、もう当たる事はない」(新人王対タイトルホルダーのような、特別に企画された、格の違いがある対局を指す言葉)余程格の違いを感じたのか。石田九段の発言(一般人からは将棋界のスターとして見られている藤井君ですが、身内からはどう見られているのか自身が運営する将棋センターのサイトで次のように書いていました)

2018年8月16日「確かに出る杭は打ちたくなりますが、藤井聡太七段ぐらいになると、打ちたくても打ちようが無く、逆に将棋界の救世主崇められているのが現状です」

2019年8月三浦弘行九段 JT 杯対藤井戦対局前に

司会者から「藤井先生とは初の公式戦となりますが」と話しを振られると、「藤井七段は普段とても可愛い後輩ですが、この瞬間だけは何とか藤井君を嫌いになって2時間だけアンチ藤井となって頑張ります(笑)」対局は180手に及ぶ大熱戦の末に三浦九段が勝利しました。藤井少年のプロデビュー戦の相手でもあり、藤井少年に更新されるまで62年間も破られなかった最年少棋士記録を持っていた、加藤一二三九段の発言。

2017年7月23日 藤井四段が28連勝を決めた時、藤井四段に対し「あなたが勝つと私がテレビ呼ばれます」2018年2月17日 朝日杯の決勝戦、藤井五段が勝利した、対局後に感想戦が公開形式で行われ広瀬八段は「藤井さんを応援している皆さんと、一人ぼっちの私」と自虐気味に語り、観客たちの爆笑を誘った。これには訳があった、準決勝の久保王将戦の会場はやや小さな部屋で行われ、観客数も少なかった。一方、藤井五段の準決勝の相手は羽生竜王だったため、将棋界だけでなく世間にも注目されるような一局となり、大きなホールの壇上で行われた。

2018年3月9日 畠山七段 順位戦の ABEMATV 中継解説者として登場、二週間前に藤井六段に敗れた対局の話題になると「対局の4日前から体が痙攣というか、震えがあった。怖くてその将棋を振り返っていない」と冷や汗を流しながらコメントしていた。どうやら、自分が28年間かけて磨いてきた感覚が壊されるのではないかという恐怖があったみたい。畠山七段のコメントからほぼ一週間後の15日 C2組順位戦で藤井六段が会心の指し回しを見せて、三枚同六段の王を完全に捉えた局面で、三枚同六段の王には複数の詰み筋が発生した。解説をしていた佐々木六段は、「藤井君クラスだと、詰みすぎて困る局面」と解説した。さらに、一週間後の22日に行われた王座戦予選で藤井六段が糸谷八段に快勝すると、27日に行われた対局の解説として登場した山崎八段

は、「怖いですよ、やっぱり。藤井君を見て楽しい時



期は過ぎました」とコメントした。2018年5月6日岡崎将棋まつりに豊島八段が登場すると、前年の夏に行われた棋王戦で藤井四段に勝った事が話題となり「将棋を全く知らない方から藤井君に勝つなんて凄いてメールが何件も来ました」言い、会場が大いに盛り上がった。

5月20日に行われた名人戦第4局のTV中継に渡辺棋王が登場すると、歴代5人しかいない中学生棋士の話題になり、「羽生さんと藤井君という二人の大天才に挟まれるのは凡人には辛い。此れからはサンドイッチの具と呼んで下さい」と発言した。この発言を聞いた聞き手の山口女流は「具が一番おいしい」とフォローした。5月26,27日に、岐阜県で人間将棋のイベントが行われ、東軍を渡辺棋王、西軍を都成五段が指揮した。渡辺棋王が「去年はどっちが勝ったか知っておるか」と問うと「東軍の勝ちじゃった」都成五段が答えた、すると渡辺棋王は「西軍は今年も負けたら、あの天才少年を連れて来るしかないんじゃないか」と都成五段は「そんな事を言ってしまったら、観客の皆が東軍を応援するではないか」とすかさず答えると、「お主なかなか返しがうまいな、見直したぞ」と渡辺棋王は返し、観客に大受けした。勝負は都成五段が勝利した。7月31日に行われたC級1組順位戦の藤井七段対西尾六段の対局は、藤井七段が不安定な戦況にも関わらず、激しい攻め合いに持ち込んで、終盤は一気に突き放して勝利を納めた。そんな展開を見てTVで解説をしていた三枚堂六段は「さっき藤井七段の終盤は勉強になると言いましたが、これは強すぎて勉強にならない」とコメントした。

2019年7月、王位戦第1局の大盤解説会を澤田七段と中澤女流初段が担当した、次の一手クイズが出題され、正解者には景品として「弟子、藤井聡太の学び方」が贈られた。この本について中澤女流初段は「私この本買いました。貰えば良かった」とコメント。澤田六段は「藤井聡太の倒し方が欲しいです」と言った。2020年の王位リーグ、藤井七段対阿部七段の観戦記が8月20日から東京新聞などの地方紙に掲載され、その中で阿部七段が110文字ほどの藤井評で、最初の1文で「将棋界の歴史は400年ほどですけど、ついに人間の強さというものが完成したんだと思いました」とコメントした。

7月16日に行われた棋聖戦第4局では、都成六段

と室谷女流三段が解説を務めた。イベントの控室で藤井七段が端の方に座っていて、詰め将棋の話題が出た途端に近寄って来るという話になった。この様子を室谷女流三段は「女の子がスイーツを前にして、目がキラキラするような感じ」と表現すると、都成六段が「藤井七段にとって詰将棋はスイーツ」と話した。

2021年2月、ABEMのタラレバ検討会に深浦九段が登場、夜遅くまで対局が続いていたある日、トイレで藤井二冠(当時)と遭遇した話、その時ゴミ箱がペーパータオルで濡れていた、皆慌てているので気にしない、然し藤井君はゴミを押し込み、皆が普通に使えるようにしていた、強い人は違う。

令和3年の将棋年鑑が2021年8月に発売、毎年、棋士アンケートというコーナーがあり、「今回は自分だけが知っている他の棋士の素敵な一面」などのお題がありました。これに対する上野六段の答え「藤井二冠が対局中、お手荒いでスリッパを揃えているのを見た」2021年9月王座戦の解説を先崎九段と井手五段が担当、藤井二冠の話題になり、先崎九段は「絶対王者だからねえそうなると思っていただけ、そうなるのが早かった」藤井四段に対して渡辺竜王は「1つの結論として色々な風に論じる事が出来る将棋であり、時代の流れを象徴している将棋」と藤井四段の将棋を評価した。更には「どのくらいの棋士になるのか、ある程度分かるようになるのは3年後くらいじゃないですか、今の成長曲線で行けば羽生さんと同じくらいまで達すると思いますけど、まだ推測や期待の域をでないです」と藤井四段の可能性に言及した。この3年後の2020年7月16日に、史上最年少でタイトルを獲得した。相手は、正にこの発言をした渡辺棋聖だった。

8月20日第60期王位戦七番勝負で藤井棋聖相手に0勝4敗で敗退失冠後のインタビューでは「まだ整理はついていないです、藤井さんに4発も食らった事は、寂しくないって言ったら・・・流石に嘘になります、一生懸命やったつもりですけど、相手に比べると取り組む姿勢も何か甘かったのかもしれない」と木村王位はその衝撃の大きさを語った。

2021年3月10日順位戦B級2組の最終戦、相手は中村七段この対局では藤井二冠に127手で敗れた、中村七段は「直前には対策、研究を非常に重ね、何十時間もかけて一生懸命臨んだ対局でした」事前に準備していた作戦を繰り出したものの、そこからの藤井二冠の柔軟な発想による対応で構想力勝負となり、終盤以降は中村七段も勝負をかけた手を放つも、藤井二冠の正確かつ完璧な対応によって投了に追い込まれる展開だった。「どうやら私の方に思わしい手はなかった。ハッキリと反省点が分からない。それは力負けと呼ばれるものの正体なのかもしれませんが、それを乗り越えるためには、私自身が実力をつけるしかないのですが」と話した。だが、次期の順位戦B級2

組は9勝1敗という好成績をおさめ、B級1組昇級を果たした。

2020年、羽生九段相手に4勝1敗で防衛に成功した豊島竜王は、竜王戦後、渡辺名人や永瀬拓矢王座、藤井二冠との対局について問われると「内容では押されている、藤井さんの対局はよく見えています、これは自分には指せないという手が多いんです」とこぼした。増田康宏六段が藤井聡太五冠達成後に、藤井五冠の将棋スタイルについて問われると「以前は指さなかった相掛かりを昨年から指すようになって、相手は序盤で何を指してくるかが読み切れなくなった、ただでさえ角換わりや矢倉でも変化が多すぎて読めなかったのが、更に選択肢が加わって対応は難しくなった」

「将棋に対する藤井さんの姿勢は、局面における最善手を追求するという事で変わりませんが、盤上はより複雑になっている」藤井五冠との対局については、「藤井さん相手に序盤から形勢を悪くしたら終わりという覚悟は誰でもあるので相手としてはキツイ、序盤に対応仕切れなくなっているのに、中盤は圧倒的に強い。序盤研究を深めながら中終盤の強化も、という両方を追い求めるのはなかなか厳しいです、だから勝つ事が非常に難しくなっている」

2020年7月、棋聖戦第4局は関西将棋会館5階、御上段の間で行われました。その日瀬川六段は藤井七段の隣の部屋で対局していて、トイレの入り口で藤井七段と遭遇、道が狭くてすれ違うのが困難だったのですが、藤井七段は道を譲ってくれたのだ、瀬川六段は自らのブログで、こう振り返っていました、「いえ、あなたの数秒と僕の数秒は価値が違うんですけど」と恐縮したりしていました。初タイトルを懸けた重要な対局の最中でも、先輩へのリスペクトを欠かさない姿勢が凄い。棋士達からの評判が良いのは、こういう行動の積み重ねによるものなのかも。

2020年2月王位リーグの羽生対藤井戦は木村王位が解説、第2回アベマトーナメントで、藤井七段と対局した時の感想戦のエピソードを披露しました、解説の羽生さんが私に「こうやればよかったのでは?とやってきたんですけど、僕が咄嗟にその話が理解できなくて、はあ?って聞き返したらそのうち、羽生さんと藤井君が二人で楽しそうに感想戦始めて、私はおいてけぼりになっちゃって、藤井、木村戦の感想戦を木村抜きでやってて(笑)」現レジェンドと、未来のレジェンドなので、心惹かれあったのでしょうか。とはいえ、31歳差のあるのに会話が盛り上がるのは地味に凄い気がします強くなりすぎると、周囲に避けられるのが普通と思いますが、藤井君は逆に、敵を味方に変えている、10代とは思えない対人スキルの高さに驚かされます。

2020年6月28日藤井七段が挑戦者として挑んだ棋聖戦第2局での藤井七段の完勝ぶりを見て、「これでタイトルを取れない方がおかしい」と腰を抜かした。続けて「私の常識では評価できない。何が起きたのか

分からない程の強さだった。序盤、藤井七段は悪行とされる方法で攻撃を仕掛けたため、高野六段には「将棋を始めたばかりの子がやりそうな手」とすら映ったみたいで、然し、中盤では一転、攻めに使うと思われた銀を守り役として自陣に打ち付けた。多くの棋士の意表を突いたこの手は、最新のAIが6億手を読んでようやく最善と判断した「AI越え」の一手として話題になった一手だった。終盤の仕留め方も鮮烈だった事から、「まるで作ったかのように、痺れる手筋が次々と飛び出した。真剣勝負で、然も最強の棋士を相手に、あんな将棋は見た事がない」と高野六段は脱帽した。又、「いくら藤井さんでも何年かに1回の出来であって欲しい。これが標準だとしたら、勝てる棋士がいないだろう」とその強さを表現した。谷川九段は「学校があると将棋に専念できる期間が短くなる。コロナ禍で休みとなった2カ月は、藤井さんにとって貴重な時間だったはず」と推測した。6月以降、7月半ばまでの1ヵ月半という期間で16局を指す過密日程ながら、成績はなんと14勝2敗だった。倒した相手も圧巻でA級棋士やタイトル保持者がずらりと並んでいた。藤井棋聖が更新するまで、タイトル挑戦と獲得の最年少記録を保持していた屋敷伸之九段は「受けの強さがベースにあるのでは」と藤井棋聖の強さを分析した。「しっかり受けてから、少しずつポイントを稼ぐように攻める。形勢が良くなっても、とにかく勝ちを急がない丁寧さが印象的」と分析した。

2020年7月6日に順位戦で初めて対戦した橋本宗載八段は、中盤のまだ勝負はこれからという場面で一気に攻めを食らったため、終局後に「積んでいるエンジンが違う」と感嘆し「こっちがとぼとぼ歩いている間に一瞬で抜き去られた様な感じ。スピードが凄かった」とコメントを残した。まだまだ探せば出てきそうですが、今回はここまで、次回を楽しみに……

## 藤井 聡太

日本の将棋棋士。杉本昌隆八段門下。

棋士番号は307。愛知県瀬戸市出身。

血液型はA型。

2016年に史上最年少で四段昇段を果たすと、そのまま無敗で公式戦最多連勝の新記録を樹立した。-

・生年月日 2002年7月19日(20歳)

・出身地 愛知県瀬戸市

・学歴 名古屋大学教育学部付属  
中学校、高等学校